

安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律（昭和31年法律第160号）第10条第5項の規定に基づき、令和2年度の献血の推進に関する計画を次のとおり公表する。

令和2年3月23日

静岡県知事 川勝平太

令和2年度静岡県献血推進計画

第1 はじめに

本計画は、安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律（昭和31年法律第160号）第10条第4項の規定に基づき定める令和2年度の献血の推進に関する計画であり、同法第9条第1項に規定された血液製剤の安全性の向上及び安定供給の確保を図るための基本的な方針（平成31年厚生労働省告示第49号）等に基づくものであります。

第2 令和2年度に献血により確保すべき血液の目標量

1 献血により確保すべき血液量

本県において、令和2年度に必要と見込まれる輸血用血液製剤の量は、赤血球製剤13,720リットル、血漿製剤5,928リットル、血小板製剤4,431リットルです。

東海北陸ブロック7県では、広域的な需給管理のもと必要な血液（血漿分画製剤の原料となる血漿を含む）を確保することとしており、本県においては、令和2年度は、全血採血により34,760リットル及び成分採血により23,317リットル（血小板採血5,642リットル及び血漿採血17,676リットル）の計58,077リットルの血液を献血により確保する必要があります。

区分	全血献血	成分献血			合計
		血小板成分献血	血漿成分献血	小計	
血液量	34,760L	5,642L	17,676L	23,317L	58,077L

2 献血者確保目標人数

58,077リットルの血液量を確保するための、献血者確保目標人数を146,600人とします。

(1) 献血の種類別

献血の種類	血液確保目標量	献血者確保目標人数
200mL献血	600L	4,200人
400mL献血	34,160L	97,200人
成分献血	23,317L	45,200人
計	58,077L	146,600人

(2) 地域別

地域	献血可能人口 (16～69歳人口 2019.10.1)	目標人数	対献血可能 人口比
東部	742,198人	48,625人	6.6%
中部	728,630人	48,260人	6.6%
西部	844,604人	49,715人	5.9%
計	2,315,432人	146,600人	6.3%

(3) 市町別

別表のとおり

第3 目標量を確保するために必要な措置

第2に掲げる目標量を確保し、また、将来にわたり献血者を確保するために、県、市町及び採血事業者などの関係機関が密接な連携のもと次の事項を実施し、県民の献血への理解と協力を図ります。

特に、今後、輸血用血液製剤の需要は、輸血用血液製剤を多く使用する高齢者が増加するものの医療技術の進歩等により、僅かに減少傾向が見込まれていますが、血漿分画製剤の需要は、増加傾向にあります。今後の人口動態を考慮すると献血可能人口の減少が推定されていることから、将来にわたり献血者を確保するため、若年層を中心とした対策を実施します。

1 若年層対策の実施

(1) 「アボちゃんサポーター」事業の実施

県は、高校生の献血ボランティアを「アボちゃんサポーター」として委嘱し、地域、学域等における献血広報や啓発活動への参画を通じ、将来の献血を支える若年層の献血意識の高揚を図ります。

(2) 大学生等献血ボランティアの育成及び活動の支援

県及び採血事業者は、大学等（大学や専門学校）の協力を得て、献血推進活動の担い手となる大学生等献血ボランティアを育成し、主に若年層を対象に行う献血推進キャンペーン等の啓発活動を支援します。

(3) 献血セミナーの推進

県及び採血事業者は、若年層へ献血の意義や血液製剤について分かりやすく説明する「献血セミナー」を大学等や高等学校に取り入れてもらえるよう積極的に情報提供し、献血に関する正しい知識の普及啓発と協力の確保を図ります。

(4) 献血未実施校に対する戸別訪問の実施

県及び採血事業者は、学内献血を実施していない大学等（特に専門学校）や高等学校を個別に訪問し、前項の「献血セミナー」を積極的に活用してもらえるよう情報提供を行うとともに、学内献血の実施に向けた働き掛けを行い、学内献血を実施する大学等及び高等学校数の増加に努めます。

(5) 高校生及び10歳代への2回目以降の献血協力の推進

採血事業者は、過去に献血を行ったことのある高校生や10歳代に対し、献血への協力を積極的に呼び掛け、複数回の献血経験を持つ若年層の増加に努めます。

(6) 小学生、中学生を対象とした対策

将来の献血協力に向けた啓発のため、採血事業者は、県や献血推進団体等と協力し、小学生や中学生に対して血液センター等において体験学習を積極的に実施します。

2 幼少期の子供とその親を対象とした普及啓発対策

次世代の献血者の育成に向けて、親から子へ献血や血液製剤について伝えることが重要です。このため、採血事業者は、親子で一緒に献血に触れ合えるよう、献血会場及び血液センター等を利用した啓発を行います。

3 企業等への献血推進対策の実施

県及び採血事業者は、献血に協力する企業や団体に対し、献血への一層の理解と協力を求めるため、定期的に献血に関する情報等を提供するとともに、献血サポーター制度（献血活動に参加・協賛する企業にロゴマークを発行する制度）の周知を図り、参加企業団体の増加に努めます。

企業や団体に対し、献血者の現状を説明し理解を求め、特に、若年層及び30歳代の献血促進について協力を求めます。

また、これまで献血活動に参加していない企業や団体に対し、献血への協力を呼び掛けるなど、積極的な献血推進活動を行います。

4 複数回献血者対策の実施

採血事業者は、同一献血者から年間複数回にわたり献血への協力を得ることは、必要血液量を安定的かつ効率的に確保するだけでなく、血液製剤の安全性確保の観点でも重要であることを広く周知し、献血会場等で献血経験者の複数回献血クラブ「ラブラッド」への登録を推進し、同クラブを活用して複数回献血協力を積極的に呼び掛けます。

県は、各種広報媒体を活用してラブラッドへの登録を呼び掛け、献血者の安定的な確保に努めます。

また、採血事業者は、若年層に対して「1 若年層対策の実施」等に定める取組を通じて、複数回献血の推進を図るとともに、数年間献血をしていない若年層及び30歳代の献血経験者に対し、積極的に献血への協力を呼び掛けます。

5 献血推進のための啓発、広報等の実施

(1) マスメディアによる広報の実施

県及び採血事業者は、「愛の血液助け合い運動」月間（7月）及び「はたちの献血キャンペーン」期間（1～2月）を中心にラジオ、広報紙、若年層への啓発に向けてSNSを含むインターネット、ポスター等の各種広報手段を効果的に活用し、献血や血液製剤に関する理解を深めるための普及啓発、献血への協力を呼び掛けます。併せて県は、市町に住民向けに啓発、広報の実施を呼び掛けます。

また、県は、特に血液が不足しがちな冬季（1～3月）には、ラジオ番組により、献血に関する各種の情報を県民に提供し、献血への理解と協力を呼び掛けます。

(2) 献血推進活動の実施

県及び採血事業者は、「愛の血液助け合い運動」月間及び「はたちの献血キャンペーン」期間のほか、血液の供給状況や献血者の確保状況に応じて献血推進キャンペーンを実施し、各市町や関係機関の協力を得て、アボちゃんサポーターや大学生等献血ボランティアを活用して、地域住民への献血啓発活

動を行います。

なお、採血事業者は、県、市町等の協力を得て、普及啓発資材を活用し、近年需要が増大している血漿分画製剤について、献血から得られた血液を原料とすることや、多くの疾患の治療に欠かすことができないことなどを周知します。

(3) パンフレット等による啓発

県は、啓発用のパンフレット「献血インフォメーション」を作成し、献血キャンペーンや各種イベント等で配布するほか、本県の血液事業に関する冊子「血液事業の現状」を発行し、献血に関する情報の提供に努めます。

また、採血事業者も独自に作成したパンフレット等を活用して、献血についての啓発に努めます。

6 静岡県献血推進大会の開催

県及び採血事業者は、「愛の血液助け合い運動」月間（7月）行事の一つとして「静岡県献血推進大会」を開催し、県民に献血推進への一層の協力を呼び掛けるとともに、日頃献血推進に積極的に協力し、貢献した個人や団体に知事褒賞等の贈呈を行います。

また、高校生が大会に関わる機会を設けることで若年層への献血意識の普及を図ります。

7 静岡県献血推進協議会の開催

県は、献血に対する県民の理解と協力の下に、献血思想の普及と献血者の組織化を図り、献血制度の適正な運営を推進するため、献血協力団体等の代表者21人の委員で構成する静岡県献血推進協議会を開催します。

協議会では、県献血推進計画の策定のほか、献血に関する各種施策等について協議します。

8 職場における献血の推進

県及び市町は、県庁、市役所及び町役場等の公共施設を会場とした移動採血車による献血を定期的に実施するなど、献血に積極的に協力します。

また、他の官公庁、企業、医療関係団体等に、ボランティア活動である献血への協力を呼び掛けるとともに、献血のための休暇取得を容易にするなど、献血しやすい職場づくりへの配慮を呼び掛けます。

9 採血所の環境整備

(1) 献血者が安心して献血できる環境の整備

採血事業者は、献血の受入れに当たっては献血申込者に不快の念を与えないよう、丁寧な対応をすることに特に留意し、献血ができなかった方に対しては、その理由について分かりやすく説明するなど、その後の献血推進への協力を繋がるよう配慮します。

また、献血者の要望を把握し、採血後の休憩スペースを十分に確保する等、献血受入体制の改善に努めます。

さらに、子育て中においても安心して献血できるよう、託児等に関する環境の整備に努めます。

加えて、初回献血者が抱えている不安等を払拭することはもとより、採血の度ごとに、採血の手順や採血後に十分な休憩をとる必要性、気分が悪くなった場合の対処方法等について、映像やリーフレット等を活用した事前説明を十分に行い、献血者の安全確保を図ります。

なお、献血者の個人情報保護するとともに、献血による健康被害に対する補償のための措置を実施

します。

(2) 献血者の利便性の向上

採血事業者は、地域の実情に応じ、移動採血車による計画的な採血や、企業・団体等の意向を踏まえた集団献血の実施による献血機会の提供に努めます。

また、採血事業者は、ラブラッドを活用したインターネットによる事前予約を積極的に推進し、待ち時間の解消を図るなど、献血者の利便性の向上に努めます。

第4 その他献血の推進に関する重要事項

1 市町献血担当部署との連携

県及び採血事業者は、市町における献血場所及び献血者の確保等、献血推進の施策が円滑に行われるようにするため、市町献血担当部署との連絡調整等、連携に努めます。

2 献血受入れ計画の策定

県は、市町及び採血事業者と連携して、各市町における献血の年間計画を策定し、効率的な献血の実施に努めます。

3 血液検査による健康管理サービスの充実

採血事業者は、採血に際して献血者の健康管理に資する検査を行い、献血者の希望を確認してその結果を通知します。

また、低色素等により献血ができなかった献血申込者に対して、栄養士等による健康相談を実施し、献血者の健康管理をサポートします。

4 検査目的の献血の防止

県及び採血事業者は、H I V等感染症の検査を目的とした献血の実施が指摘されていることを踏まえ、安全な血液製剤を確保するため、関係機関と協力して、検査目的での献血防止のための啓発に努めます。

5 献血における問診の徹底

採血事業者は、献血者の安全と、輸血を受ける人の安全の両方を守るため、献血における本人確認や問診を徹底し、血液製剤の安全性の確保に努めます。

また、県及び採血事業者は、本人確認や問診の重要性についての啓発に努めます。

6 献血者の意思を尊重した採血の実施

採血事業者は、初回献血者や献血に不安がある方に対しては、採血区分には200ミリリットル全血採血、400ミリリットル全血採血又は成分採血があること、採血基準を満たしていればいずれの採血でも安全であることを十分に説明し、献血者の意思を可能な限り尊重したうえで、採血区分を決定します。

なお、将来の献血基盤の確保という観点においては、若年層における献血体験が非常に重要であることから、県及び採血事業者は、高校生等の献血において、400ミリリットル全血献血に不安がある場合には200ミリリットル全血献血を推進するなど、出来る限り献血を経験してもらうよう努めます。

7 血液製剤の在庫水準の常時把握と不足時の的確な対応

県及び採血事業者は、血液製剤の不足等による危機的な状況を未然に回避するため、特に有効期間の短い血小板製剤と赤血球製剤の在庫水準を常時把握し、在庫が不足する場合又は不足が予測される場合には、連携して広報等を行い、献血者を確保して緊急時に対応します。

8 災害時等における献血の確保

県及び採血事業者は、災害時等において医療需要に応じた必要な血液量を確保できるよう、市町等と連携して、様々な広報手段を用いて、需要に見合った献血の確保を行います。その際、採血事業者は、被害状況等の情報収集を行ったうえで、献血の受入れの可否について判断するなど、献血者の安全に十分に配慮します。

採血事業者は、複数の通信手段の確保や移動採血車等の燃料の確保等を含む広域的な需給調整等の手順を定めることにより、災害時等における献血受入体制を構築し、県及び市町は、採血事業者の取組を支援します。

なお、県及び市町は、静岡県医療救護計画に基づき災害時等に輸血用血液製剤が医療現場に円滑に供給されるよう、定期的に採血事業者と連携した防災訓練を実施します。

9 献血推進施策の進捗状況等に関する確認と評価

県は、献血推進のための施策の進捗状況、採血事業者による献血の受入れ実績について確認し、その評価を行うことにより、次年度の献血推進計画等の作成に当たり参考とするとともに、必要に応じ、献血推進のための施策の見直しを行います。

別表(1/3)

令和2年度市町別献血者確保目標

東部地区

市町名	夜間人口 (2015.10.1)	昼間人口 (2015.10.1)	16～69歳人口 (2019.10.1)	献血者確保目標人数(採血計画本数)					計画日数		夜間人口比 人口比(%)	昼間人口比 人口比(%)	16～69歳 人口比(%)
				200mL献血	400mL献血	成分献血	計	単位換算※	採血車	オープン			
下田市	22,916	23,935	11,894	15	325	0	340	665	6	0	1.5%	1.4%	2.9%
東伊豆町	12,624	12,173	6,420	5	85	0	90	175	2	0	0.7%	0.7%	1.4%
河津町	7,303	6,828	3,897	5	85	0	90	175	2	0	1.2%	1.3%	2.3%
南伊豆町	8,524	7,968	4,302	5	100	0	105	205	2	0	1.2%	1.3%	2.4%
松崎町	6,837	6,483	3,352	10	125	0	135	260	3	0	2.0%	2.1%	4.0%
西伊豆町	8,234	8,080	3,836	5	100	0	105	205	2	0	1.3%	1.3%	2.7%
熱海市	37,544	39,853	19,649	10	230	0	240	470	5	0	0.6%	0.6%	1.2%
伊東市	68,345	65,932	36,551	20	540	0	560	1,100	11	0	0.8%	0.8%	1.5%
伊豆市	31,317	29,585	17,072	10	245	0	255	500	5	0	0.8%	0.9%	1.5%
伊豆の国市	48,152	45,844	28,950	40	950	0	990	1,940	19	0	2.1%	2.2%	3.4%
三島市	110,046	106,724	69,287	75	1,690	0	1,765	3,455	35	0	1.6%	1.7%	2.5%
函南町	37,661	30,202	23,001	15	285	0	300	585	6	0	0.8%	1.0%	1.3%
沼津市	195,633	209,378	121,531	170	3,855	0	4,025	7,880	74	0	2.1%	1.9%	3.3%
裾野市	52,737	55,947	33,641	50	1,250	0	1,300	2,550	25	0	2.5%	2.3%	3.9%
清水町	32,118	31,155	20,901	250	7,165	14,360	21,775	86,380	7	364	67.8%	69.9%	104.2%
(採血車)				15	335	0	350	685	7	0			
(ルーム)				235	6,830	14,360	21,425	85,695		364			
長泉町	42,331	40,532	28,401	30	695	0	725	1,420	14	0	1.7%	1.8%	2.6%
御殿場市	88,078	86,895	57,268	125	2,845	0	2,970	5,815	59	0	3.4%	3.4%	5.2%
小山町	19,497	20,006	12,005	40	1,015	0	1,055	2,070	20	0	5.4%	5.3%	8.8%
富士市	248,399	246,540	157,675	295	6,855	0	7,150	14,005	135	0	2.9%	2.9%	4.5%
富士宮市	130,770	124,752	82,565	195	4,455	0	4,650	9,105	86	0	3.6%	3.7%	5.6%
東部合計	1,209,066	1,198,812	742,198	1,370	32,895	14,360	48,625	138,960	518	364	4.0%	4.1%	6.6%
県合計	3,700,305	3,692,336	2,315,432	4,200	97,200	45,200	146,600	424,600	1,569	1,092	4.0%	4.0%	6.3%

※単位換算は、採血計画本数の200mL献血を1単位、400mL献血を2単位、成分献血を5単位として算出しています。

別表(2/3)

令和2年度市町別献血者確保目標

中部地区

市町名	夜間人口 (2015.10.1)	昼間人口 (2015.10.1)	16～69歳人口 (2019.10.1)	献血者確保目標人数(採血計画本数)					計画日数		夜間人口比 人口比(%)	昼間人口比 人口比(%)	16～69歳 人口比(%)
				200mL献血	400mL献血	成分献血	計	単位換算※	採血車	オープン			
静岡市	704,989	726,136	441,361	820	20,620	15,420	36,860	119,160	292	364	5.2%	5.1%	8.4%
(採血車)				580	14,930	0	15,510	30,440	292	0			
(ルーム)				240	5,690	15,420	21,350	88,720		364			
焼津市	139,462	130,877	87,423	160	3,200	0	3,360	6,560	63	0	2.4%	2.6%	3.8%
藤枝市	143,605	131,503	89,527	150	2,850	0	3,000	5,850	59	0	2.1%	2.3%	3.4%
島田市	98,112	91,408	59,714	100	2,080	0	2,180	4,260	42	0	2.2%	2.4%	3.7%
川根本町	7,192	6,944	3,377	5	95	0	100	195	2	0	1.4%	1.4%	3.0%
吉田町	29,093	30,260	19,132	10	950	0	960	1,910	20	0	3.3%	3.2%	5.0%
牧之原市	45,547	50,315	28,096	100	1,700	0	1,800	3,500	34	0	4.0%	3.6%	6.4%
中部合計	1,168,000	1,167,443	728,630	1,345	31,495	15,420	48,260	141,435	512	364	4.1%	4.1%	6.6%
県合計	3,700,305	3,692,336	2,315,432	4,200	97,200	45,200	146,600	424,600	1,569	1,092	4.0%	4.0%	6.3%

※単位換算は、採血計画本数の200mL献血を1単位、400mL献血を2単位、成分献血を5単位として算出しています。

別表(3/3)

令和2年度市町別献血者確保目標

西部地区

市町名	夜間人口 (2015.10.1)	昼間人口 (2015.10.1)	16～69歳人口 (2019.10.1)	献血者確保目標人数(採血計画本数)					計画日数		夜間人口比 人口比(%)	昼間人口比 人口比(%)	16～69歳 人口比(%)
				200mL献血	400mL献血	成分献血	計	単位換算※	採血車	オープン			
掛川市	114,602	115,883	74,656	65	2,710	0	2,775	5,485	58	0	2.4%	2.4%	3.7%
菊川市	46,763	44,413	30,899	70	1,220	0	1,290	2,510	25	0	2.8%	2.9%	4.2%
御前崎市	32,578	31,602	19,877	10	1,080	0	1,090	2,170	21	0	3.3%	3.4%	5.5%
袋井市	85,789	84,111	57,238	135	1,745	0	1,880	3,625	40	0	2.2%	2.2%	3.3%
磐田市	167,210	172,149	107,130	150	4,005	0	4,155	8,160	86	0	2.5%	2.4%	3.9%
森町	18,528	18,601	11,000	20	405	0	425	830	8	0	2.3%	2.3%	3.9%
浜松市	797,980	792,639	505,588	1,025	20,340	15,420	36,785	118,805	276	364	4.6%	4.6%	7.3%
(採血車)				785	14,650	0	15,435	30,085	276	0			
(ルーム)				240	5,690	15,420	21,350	88,720		364			
湖西市	59,789	66,683	38,216	10	1,305	0	1,315	2,620	25	0	2.2%	2.0%	3.4%
西部合計	1,323,239	1,326,081	844,604	1,485	32,810	15,420	49,715	144,205	539	364	3.8%	3.7%	5.9%
県合計	3,700,305	3,692,336	2,315,432	4,200	97,200	45,200	146,600	424,600	1,569	1,092	4.0%	4.0%	6.3%

※単位換算は、採血計画本数の200mL献血を1単位、400mL献血を2単位、成分献血を5単位として算出しています。